

友愛會に對しては其の穩健實なる發展を切望して已まなかつた次第であつた。

其頃私の實業界の知友中には私に忠告と與へて人となつた。其の趣意は勞働組合の援助は今日の政策として結構であるが、果して其組合の健全なる進歩を期待することか多來るか何うか、若し組合が強大となつた結果、思ふところ成らざるはなりの勢に乗つて驕慢横暴の態度を示すやうになつたならば、却つて社會特に工業界の禍を招來するものでは無いかと。然し私は断乎として初志を辭さずして之に答へて言ふたのは、左様な危機の念を以て相共に睨み合ひ探り合ふのは宜しきない。いつまでも探り合ひをして居れば双方とも胸襟を開く機會が無く、疑心暗鬼を生じて遂に

は階級鬭争の修羅場を現出するやうに成る。感情は感情を生ず、行掛りは行掛りを累ねて、僻みと猜みと相對し、好景氣には勞働者が驕り不景氣には資本家が感張るといふやうな不道理なる意氣張りを續けて行けば、其極工業界の破滅となつて社會の不幸此上なまきことである。故に吾人は今日に寛大なる心を以て相接し當然發達すべきものは之を助長し善導せねばならぬと。私は斯様な考を以て資本家勞働者双方の覺醒を促すことに努力を續け、大正五年に事業界を隱退すると共に、今後の生涯の一部を此方面に捧けし續りであつた。

時佐北床次大臣の主旨にて朝野同憂の諸名士及工業俱樂部の諸君と其相談に與つて、協調會創立の議が持